

令和7年度 学びの充実あと押し事業

子どもが『自ら決め、動き出す』学びの場作り

実践内容

願い・昨年のテーマから
さつまいも

ゴールややりたいことから
クラスを楽しくする会社活動
クラスメディズニー

さがすことから
秋探し
ムササビ

テーマから
SDGsなど身近な問題
学校のこと、調べたいこと
集

【自ら決め、動き出す】

本校は昨年度から子どもたちの「やりたい」を実現する学校裁量「私の時間」が始まり、今年度は「自ら決め、動き出す」姿を、生活科、総合的な学習等の授業に取り入れることができないか、1年間考えてきました。1学期には「どんな総合（生活、生活単元学習、自立活動）をしてきて、どんな風にスタートしたのか」という若手の先生の問いを元に小グループで考えることからスタートしました。様々な世代やキャリアを持つ先生方の、これまでの経験やノウハウを知ることができる会になりました。

【若手の先生が相談しやすい授業作り】

2学期には3人の若手の先生に、生活科、総合的な学習の授業を公開していただきました。学びのあと押し事業の研修で学んだ「チューニング」（悩みや課題を書き出し、先生方で話し合っていく研修）を佐久市学びの改革リーディング校加配教員（探究ファシリテーター）の竹内克紘先生に支援していただきながら実践しました。授業をする先生の「今ここで考えたい問い」に注目しながら、他の先生方にいろんな意見をもらいました。「今ここで考えたい問い」にフォーカスしたことで、若手の先生方がやりたいことを大切にしながら、悩みを相談することができ、チューニングをした先生方は「安心して授業ができるようになった」と振り返っていました。

公開授業の1ヶ月前から希望者研修で「もやもや相談会」を行い、今の生活科、総合的な学習の進み具合や悩みに寄り添いながら、単元まるごと一緒に授業を作っていく研修の時間をとりました。実際に「材」に触りながら、「こんなことができそうだ」ということを気楽に語り合う場を作ることができました。

【学んだことの証しは、ただ一つ「何かがわかること」】

12月に総合的な学習の全校公開授業があり、埼玉大学の岩川直樹先生をお招きして、3年間さつまいもを育て続けた3年生の子どもたちの姿を、先生方に見ていただきました。研修では、先生達が見いだした子どもの「自ら決め、動き出す姿」を語り合いました。子どもたちの姿から「みんなでつくるさつまいも大作戦なんだ」という思いをたくさん感じ、総合的な学習において仲間と共に学ぶということは切っても切れないことなのだと学びました。岩川先生の講演会では『学んだことの証しは、ただ一つ「何かがわかること」』という言葉が心に深く残っています。日々生活していく中で、子どもたちがどう「変化」しているのかに目を向け、心を寄せていくことで子どもたちの活動がより進化していくのだと感じました。先生方の価値観や、考えを共有しながら語り合うことができ、1年間の集大成になる授業研修会になりました。



成果と課題

① 成果

- ・研修で学んだことを生かし、先生方とたくさん語り合う研修ができたこと。
- ・学びのあと押し事業の支援により、県外視察を行うことができ、先生方の授業改善につながったこと。
- ・サポートしていただく先生がいたので、どんな研修をしていけばいいのか、細かいところまで詳しく相談することができたこと。
- ・研修が充実したことにより、それぞれの先生方が明日からの授業につながるような学びがある研修になったこと。
- ・1ヶ月に1回ずつ全員研修・希望者研修と分けたことにより、学びたい人が学べる場を作れたこと。
- ・研修チーム（SAT）の形で相談したり、仕事を分けながら研修をすることができ、いろんな活動をする事ができたこと。（例：研修通信をみんなで回す、研修のアイスブレイク担当、「私の時間」担当など）

② 課題

- ・希望者の研修と全体の研修を分けたことにより、学校全体としての研修自体は少なくなりました。学校全体の研修として、よかったのかという思いもあります。学びたい人が学べる形を今年は作れたという価値もあるので、回数や研修の内容をもっと吟味したいです。
- ・研修の中で「切り込んだ問い」を問いかけた際に、先生方が答えに悩んで紙やホワイトボードに書くまでに時間がかってしまったことがありました。先生方の答えを信じて待つ心も必要だと感じたし、問いの内容や、問いまでの流れが大切だと感じました。研修の作り方をもっと勉強したいです。